

搾乳ロボットセミナー開催される

日韓農林水産技術協力の一環として韓国畜産技術研究所との共催で「搾乳ロボットセミナー」が10月28日に草地研究センター(GGホール)で開催された。本セミナーは2002年10月に韓国畜産技術研究所で開催された搾乳ロボットセミナーをうけ、2回目を日本にて開催したものである。

搾乳ロボットは数社が実用化し、ヨーロッパを中心に世界20カ国以上で3,000台程が普及している。日本でも現在100戸近い酪農家等で搾乳ロボットが導入・稼働され、今後更なる普及が見込まれている。アジアでの導入国は現時点では日本だけであるが、韓国でも韓国畜産技術研究所を中心に搾乳ロボットの開発が行われており、近い将来普及することが期待されることから、搾乳ロボットの普及状況や、韓国と日本での搾乳ロボット研究の現状等についての情報交換や両国における搾乳技術の発展を目的として本セミナーを開催した。

発表は日本での搾乳ロボット開発や、搾乳作業の省力化の取り組み等及び、韓国での搾乳ロボットへの取り組みについての計4題であった。

最初に日本での搾乳ロボットの現状について喜田が発表した。次に(株)オリオン機械岡田氏から「生物にやさしいロボットの開発」と題して国産搾乳ロボット開発及び、ロボットの基本設計や構造・機能等について発表があった。また搾乳作業の省力化技術として発売が開始された、繋ぎ飼い牛舎用搾乳ユニット自動搬送装置(キャリロボ)について、その機能や導入農家での意見等について、生研センター後藤研究員から発表があった。韓国からは、韓国産搾乳ロボットの試験機開発、韓国の酪農事情や開発機の詳細、今後のロボット開発の予定等について韓国畜産技術研究所権(Kwon)室長の発表があり、最後に両国の研究の取り組みなどについて総合討論を行った。

本セミナーの開催にあたっては、民間、自治体等の幅広い分野から40名を越える参加があり盛況であった。講師を始め、参加者各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(家畜生産管理部 調製工学研究室 喜田環樹)



セミナー冒頭で挨拶する清水副所長



韓国畜産技術研究所からの参加者他